



暗記と論理

昨日配布した「進路通信」第2号を見ると、
考查に向けての勉強法のところに、国語も英
語も「暗記が大切」ということが書いてある
(…って、誰が書いたんだろう?…笑) し
かし、これは真実である。暗記をバカにして
はいけない。

今や「デジタル社会」(by黒崎政男)であ
る。教科書に論じられている通り、検索技術
が高度化している現在、何も自分の頭の中
に知識を暗記しておく必要などないのでは
ないか、と考えている人も増えているよう
だ。

しかし、それは大きな間違いである。検
索する際、上手に検索するには、検索する
ための基礎「知識」が一定量ないとダメな
のである。君たちも経験があると思うが、
無闇矢鱈に検索しても、「内容や質によっ
て淘汰されるという力が働かない」レベ
ルの情報にしかたどり着けないのだ。真
に役立つ、正確かつ的確な情報にたど
り着くには、ある一定量の「知識」が必
要になるのであり、それはつまり暗記に
よって担保されるのである。

*

が、しかし、暗記だけの勉強が無味乾
燥な印象を与えることも事実だろう。だ
から、暗記する一方で、暗記しているこ
との根底にある「理論」、つまり、合理
的な思考に触れたいと思うのも尤もな
ことである。

古典でいうと、例えば文法が合理的な
部分となる。だから、古典の学習などい
うと、日本文化だとか伝統だとか、日
本人の感性だとか、いかにも文科系的
な印象を受けるかも知れないが、こと
文法に関しては、(こういう分類には
慎重でありたいが)いわゆる理系

の人こそ、きっちりと思考の理路をた
どること得意になるチャンスがあるの
である。

例えば、

①秋は来ぬ。

②秋ぞ来ぬ。

では、助詞の「は」と「ぞ」が違う
だけで全く正反対の意味になる(…とい
う話を、月組の土曜講習でした)。ちょ
っと難しい部分もあるが、考えてみよ
う。

実は「は」も「ぞ」も係助詞なのだ
が、ここで君たちはピンと来ないと
いえない。係助詞「ぞ」とくれば「係
り結び」だからである。ということは、
文末の「ぬ」は、①は「。」の前だ
から終止形だが、②は「係り結び」
で連体形ということになる。つまり、
見かけは同じ「ぬ」だが、実は異なる
語なのではないか?という合理的な疑
いが生じることになるのである。(こ
れが論理的思考)

紙幅もないし、まだ勉強していない
ことだから結論だけ示すと、①の「ぬ」
は、「完了の助動詞「ぬ」の終止形」、
②の「ぬ」は、「打消の助動詞「ず」
の連体形」である。よって、現代語訳
は、

①秋ハ来タ。(「きぬ」と読む)

②秋ハ来ナイ。(「こぬ」と読む)

となるのである。(確かに正反対…)

*

「ぬ」が終止形なら「完了」、連体形
なら「打消」というのは、(そのうち)
暗記すべき事項である。しかし、この
暗記した知識と論理的思考が結びつく
ことによって、正確な解釈が生まれ
てくるのである。